

丹波焼の里 ミュゼシター

2018
spring
summer
vol.
23

発行：やきものの里プロデュース倶楽部

丹波の手仕事 匠の技 9

㊤ (まるせ)窯 「急須」 大上 雅司氏
乾由明先生と林屋晴三先生の想いで
窯元おかみさんオカリナグループ 釉
インタビュー
新伝統工芸士に聞く



㊤ (まるせ)窯 工房

丹波の手仕事

匠の技 9

㊤ (まるせ)窯「急須」 大上 雅司氏

しんと静まりかえった工房の空気が、道具を使う手にスッと切られていく。ここまるせ窯の大上雅司さんはいくつも並んだ急須のパーツを順々に正確な手さばきで組み立ててつないでいく。急須は胴体・注ぎ口・取っ手・茶こし・蓋と、沢山の部品が必要で、それぞれを口クロで成形し(茶こし部以外)、半乾きになった状態でつなぎ合わせていく。まず本体に穴を開けて内側へ茶こし部を付ける。そして同じ所へ外に向けて注ぎ口を付ける。注ぎ口は徳利のような形に作った物を斜めに切るのだが、そのために工夫して手作りした道具ですばとと切る。つなぎ目はステン



レスの自作の細い棒でくると回して付けていく。口の部分は薄い板で手前からスッと押し切る。取っ手を付けて蓋を合わせたら、やっと急須が完成する。一つ一つの行程を丁寧に無駄なく進めていく手さばきに息をのむ。

工房の半分を占める水簸(すいひ)された土の桶は自身で掘った山土と丹波の奥土(田土)を合わせて何度も細かい目で漉した陶土。土が粗いとお茶が浸ることがあるし細かいと切れることが多くなって失敗が増える。また、鉄粉があると白化粧した上に黒い点が出るから出来る限り取り除く。全ては「作りたい急須を作るためにやっています。」

雅司氏は市野伊作氏・陶幸氏のもとで二年の修行の後、父清一氏と共にまるせ窯で作陶を続けてこられたが、お父様は亡くなられ、今は一人で作陶されている。普段使いの食器から穴窯で焼かれた自然釉を生かした作品も多く日本工芸会正会員でもあるのだが、いつから急須をつくるようになったのか。「煎茶の道具作りを依頼されたことが急須を作るきっかけです。四十代半ばでした。」その後、常滑の現地の急須作りを参考にし、煎茶の勉強にも力を入れ、研鑽を重ねてもう二十年近くになるそうである。

「丹波の土味を生かした急須が作りたいです。そして美味しいお茶が入れられる急須です。たとえば茶こしの所にお茶が残らないように作っています。お茶は最後の一滴が美味しい。その一滴まで出るように。それが残っていると二煎目がまざるからね。まだまだ満足はいくものは作れていません。土作りは未完成だし、まだまだ勉強です。私にしかできない急須ができたらいね。」謙虚に真っ直ぐに答えられた。



㊤ (まるせ)窯 大上 雅司

〒669・2141

兵庫県篠山市今田町下立杭212

電話 079・597・2378

文 上田 智津子 写真 迫田隆



乾由明先生と林屋晴三先生の想いで

兵庫陶芸美術館 副館長
弓場 紀知

昨年夏兵庫陶芸美術館の初代館長、乾由明先生が亡くなられた。それより少し前に兵庫陶芸美術館の運営委員であり収集委員であられた林屋晴三先生がお亡くなりになった。乾先生は西宮の料亭「播半」の御当主であり、現代陶芸研究の旗手としても活躍された。1927年のお生まれで静岡高等学校から京都大学文学部で西洋近代彫刻史の研究をされた。卒業後、今泉篤男先生の勧めで開館間もない東京国立近代美術館京都分館の学芸員としてお勤めになられた。その最初に取り組まれたのが1964年の「現代国際陶芸展」である。戦後の欧米と現代日本の陶芸を紹介したこの展覧会は戦後の陶芸界、そしていわゆる「現代陶芸」研究の出发点となるものであった。私が乾先生から兵庫陶芸美術館にお誘いを受けたのは2002年の冬、出光美術館を退職する頃であった。先生の研究やお名前は早くから存じ上げていたが、こちらは中国陶磁史研究、乾先生は現代陶芸研究であり直接にお目にかかる機会はなかった。お目にかかった時に兵庫に丹波焼を中心とした陶芸美術館が設立される計画があることを知らされたのである。先生はご自身が現代陶芸研究であり、歴史陶器の蒐集と展示と研究のお手伝いをしてほしいとのことであった。

食事すべてダンディズム、いわゆるハリカラ学者であった。今泉篤男先生は乾先生の憧れでもあったのである。その乾先生が京大卒業後に美術館学芸員になり現代陶芸研究を目指されたことは今泉篤男先生のおすすめがあったと聞いている。京大を出て美術館の学芸員になることは当時の認識からはいささかという意見があったことは事実である。しかし乾先生が開拓された「現代陶芸」研究のおかげでいわゆる「前衛」陶芸、「オブジェ」陶芸が注目され今日にいたったことも確かである。

日本国内に陶芸美術館ができたのは1990年代、有田、瀬戸、越前、備前、常滑、笠間と続き2000年代初めに兵庫にも陶芸美術館という計画が立ち上がった。実は美術館の名称にも乾先生はこだわりをお持ちであった。陶芸博物館とするか陶芸美術館とするかで先生は後者の名称にこだわられた。「陶芸」は歴史だけではなく造形「芸術」であるべきだというのが先生のポリシーであった。展覧会も歴史・陶磁史・展示と現代陶芸展示を同時に行うことや購入作品も丹波焼と現代陶芸を同時に行うなど先生の運営方針に従ったものであった。ときに学芸の現場と対立することもあったが、よくも悪くも先生は「頑固」な人であった。先生は海外の陶芸家とも親交が深かった。バーナード・リーチ、ハンス・コパー、ルーシー・リーなどとは実際に彼らのアトリエを訪ねてもおられる。国内では富本憲吉先生や石黒宗磨先生との交流が深かった。富本作品は「播半」の什器にもあり、山科の富本のアトリエにもたびたびうかがわれている。現代陶芸の旗手、八木一夫をはじめとする「走泥社」グループの陶芸家とも親交が深かった。先生からバーナード・リーチ展の御相談を受けたのは開館直前のころであった。しかし開館展は田中寛コレクショ



誰が言うように乾先生は研究者である前に名料亭「播半」の御当主であり、スタイル抜群、スーツはアルマーニのダンディな学者。先生がいつも話題にされていたのは今泉篤男先生、富本憲吉先生。私は出光美術館時代に今泉先生とご一緒したことが何度かあるがまさに今泉先生の研究、趣味、

ンによる「古丹波焼」展と決まっております。リリーチ展は翌年に回された。その後も先生は若手というか2000年代の先端的な陶芸家を中心とした展覧会も積極的に企画された。兵庫の立杭だから「丹波焼」の展覧会というような保守的なお考えは先生にはなかった。「頑固」で「ダンディ」な乾先生らしいスタイルを最後まで貫かれたのである。

乾先生の陶芸美術館の運営方針に協力されたのが林屋晴三先生である。林屋先生は1928年に京都にお生まれになり戦後初期に東博にお勤めになられ、陶磁室長から工芸課長、そして東博の次長を最後に御退官された。先生の主な研究テーマは「茶陶史」と「茶道史」でその研究は赤沼さん等に受け継がれている。それとは別に林屋先生は若手の陶芸家の開拓と育成にも努められたことは忘れてはならない。先生の最肩筋の陶芸家を取り上げるだけでなく、新しい作家に対しても忌憚のないご意見を歯に衣を着せずおっしゃられたことも事実である。私は林屋先生とは東京の出光美術館時代や東洋陶磁学会でも親しくしていただいた。陶芸美術館では収集と館の運営の委員会と座長として館の方針に忌憚のないご意見をいただいた。乾先生に対してもご意見ははっきりとお話しされる先生であった。いちど乾先生と林屋先生によるトークショーで私がお手伝い役をしたことがある。どういう流れか話題が現代の丹波焼になった時、ある陶芸家に「あなたが中心となって丹波焼を盛り立てていかなければ」と名指しでお話になられたことはいまでも忘れられない一シーンである。立杭から「人間国宝」と願っているのは私だけではない。その願いをかなえるお二人が相次いでお亡くなりになったことは残念であるが両先生がお示しになった方向性は今後も受け継がれていくことであろう。

手作りの丹波焼オカリナで 窯元おかみさんが演奏

「一緒に歌を歌ったりして、皆さんに喜んでいただき、ありがとうございました。逆にとっちが元気をもらっているような気がします。音楽を通して温かいものを感じて、みんな仲間といっしょに楽しくやっています。」

そう語るのは、丹波焼の里で活動されている「窯元おかみさんオカリナグループ 釉」のメンバー。皆さんにお話を伺いました。

12年前に兵庫県ふれあいの祭典が、丹波地域であったときに、県民局の方から何か演し物をやってもらえないかと声がかかり、丸八窯にあったオカリナを演奏することになってメンバーを募ったそうです。現在メンバーは11人。

演奏しに来てほしいという依頼がはじめの頃は年に何回かだったのが、どこかに演奏しに行くと、そこに来ておられた方がうちにも来てほしいといっただがっていき、今では月に二回ぐらい行っています。

演奏する曲は、何う場所によって変えて、保育園では童謡や、老人の施設では懐かしい曲、それに季節によっても違い、レパートリーはいろいろ増えています。



「私たち、コンサートをするといい気分で歌で助け

てもらったり、その伴奏をしているという感じ。だからコンサートで聞いてほしいというよりも、皆さんで知っている歌と一緒に歌って楽しんでくださいという感じです。

十年もやってきたら、それこそ慣れがあつて度胸も据わり、私らも楽しんで演奏できるようになりました。私らが楽しみたいと、音楽の楽しさは伝わらないと思うんです。」

「先生はいません。みんな見よう見まねで。絵の得意な人や字の得意な人、音楽の得意な人がいて、この仲間、教え合いながらここまでやれてよかったなと思います。」

「窯元の奥さんたちは、なんでも屋さんせなあかんから。まずみんな家の仕事第一やもんね。やっぱり家の者の理解がなければ私ら家を空けられないから。」

なかなか近所にいても会えないので、月に一度の夜の練習が終わってから、お茶して、世間話をしたりとかするのも、家で休憩するのはまた違った楽しみだそう。

「窯元のおかみさんが、丹波焼の手作りのオカリナを演奏するということのようなことはどこにもないことじゃないですか。小学校でやったたて笛がふければ誰でもできるので、ぜひもっと仲間に入ってほしいです。そしてこれからも活動を続けていきたいなあと思っています。」

丹波焼手作りの優しいオカリナの音色が、これからもいろいろなところで聞こえてくることを願っています。

丹波立杭焼伝統工芸士、新たに4名が認定

(丹波立杭焼伝統工芸士会) 会長：大上巧氏、新伝統工芸士：市野浩祥氏、市野信水氏、大上裕氏、清水昌義氏
(聞き手) 陶芸文化プロデューサー

このたび、丹波立杭焼としての伝統工芸士試験に4名の方が合格され、丹波立杭焼の伝統工芸士会は10名体制となりました。そこで4名の合格者の方と工芸士会長にお話を伺いました。

聞き手…最初に、試験を終えられた感想をお聞かせいただけますか。

大上裕…何回も練習したし、鉢もたくさん焼いた。本も何回も読み返しました。この年になってすごい勉強をしたと思います。やっと終わってほっとした、というのが本音です。ほんまにしんどかった。清水昌義…今言われたよう本当にたいへんでした。一応合格させてもらいましたがこんな私でええんかなあという気持ちです。これから伝統工芸士憲章に記載の姿を目指して頑張っていきたいと思っています。

市野信水…これまで人前で作るのに緊張したことはなかったのですが、たくさんさんの審査員が来られて緊張しながらも無事完成できてよかったです。

市野浩祥…私もたくさん作りました。それに本番は無茶苦茶緊張しました。いくら練習しても本番に打ち勝つ精神力がないとあかんなあ。えらいもんを受けてしまったと後悔しました。

聞き手…たいへんな試験だったようですね。具体的にはどういった内容なのでしょう。

会長…まず資格がありまして全国の工芸士会では12年以上の経験が必要ですが丹波立杭焼では30年以上としています。筆記と実技の試験です。筆記は全国共通の資料で勉強します。陶芸に限定したものでないため他の産地でも不合格となる方がおられると聞きます。実技は三つの課題を設けています。今回は、直径30センチの鉢、ご飯茶碗、そしてとっくり3本で同じ大きさかどうかを見ます。これらの作品を試験官の前で(ろ

くろで)挽いていきます。その時はみんな緊張します。

聞き手…作陶されているところを審査されるのですか。

会長…時間内に作った作品の中から提出するものを決めて試験官が判を押します。その作品を削り、釉薬をかけ焼成し提出します。提出した作品が指定寸法内かどうかも評価しますがそれ以外に形や色も評価対象です。

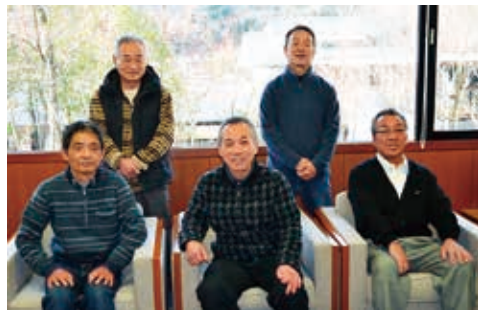
聞き手…このようなたいへんな試験に挑戦されたきっかけは何だったのでしょうか。

会長…工芸士会は現在6名ですが活発な活動をするには、もう少しメンバーが多いほうがいいので、工芸士会から丹波立杭陶磁器協同組合に受験を呼びかけ、それに4名の方が応じてくれました。

聞き手…伝統工芸士会には、強いつながりがあるのでしょうか。

会長…一時、休止状態の時もありました。伝統工芸士は全国で230品目、約4000名。今「伝統工芸士」は注目されており産地にとつては大事な存在だと思います。聞き手…伝統工芸士として、今後の抱負などお聞かせいただけますか。

市野浩祥…「伝統工芸士ってたいしたもんやなあ」といわれるような存在になれたらいいですね。う



後列：市野浩祥 市野信水
前列：大上裕 大上巧 清水昌義

丹波立杭焼・伝統工芸士会 会員

認定年度	氏名	窯元名
平成 14 年度	市野 勝	陶勝窯
	市野信行	信行窯
平成 20 年度	大上 巧	大熊窯
	清水俊彦	俊彦窯
平成 25 年度	市野晃司	源右衛門窯
	大西誠一	丹誠窯
平成 29 年度	市野浩祥	陶幸窯
	市野信水	信水窯
	大上 裕	昇陽窯
	清水昌義	丹京窯

これまでの認定は、総数 23 名

ちは親父も伝統工芸士だったし、息子も後を継いでくれているので、「3代続けて伝統工芸士」と看板をあげられるようになればいいなと思います。

市野信水…ふだんの延長ですね。昔からのものを守っていききたいと思っています。

清水昌義…「伝統工芸士って何や」って言われないうちに、「いい仕事しとてやね」と言われるように、知恵を出してくれる先輩にくっついていこうと思います。

大上裕…同じですね。とにかく10人ががんばっているなあと言われるように、励んでいかなばと思います。

会長…六古窯の伝統工芸士会展を最初に丹波でやりたいと思っています。

聞き手…具体的に展示会などの計画はございますか。

会長…陶芸美術館で県政150年を記念した展示が6月に予定されています。そこで新たな4人加わり伝統工芸士の作品も展示される予定です。またその前には今年3月、陶の郷の伝統工芸士の作品展示コーナーに新たな4人を迎え展示替えする予定です。

聞き手…今後、皆様方の作品を拝見できる機会が増えることを楽しみにしております。

兵庫県の伝統工芸品

品目	属する分野	指定年
丹波立杭焼	陶磁器	1978 年
出石焼	陶磁器	1980 年
豊岡杞柳細工	木工品	1992 年
播州三木打刃物	金工品	1996 年
播州そろばん	文具	1976 年
播州毛鉤	その他 工芸品	1987 年

【参考】経済産業省 HP、伝統法第2条
伝統的工芸品産業振興協会 HP
www.kougeihin.jp

伝統工芸士と伝統工芸品

伝統的工芸品産業振興協会では、経済産業大臣指定伝統的工芸品などの製造に従事する技術者を対象に、昭和50年度から「伝統工芸士認定試験」を実施し、合格者を「伝統工芸士」として認定しています。

「伝統的工芸品」とは、次の要件を全て満たし、伝統的工芸品産業の振興に関する法律(昭和49年法律第57号「伝統法」)に基づく経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことをいいます。

- 主として日常生活で使用する工芸品であること。
- 製造工程のうち、製品の持ち味に大きな影響を与える部分は、手作業が中心であること。
- 100年以上の歴史を有し、今日まで継続している伝統的な技術・技法により製造されるものであること。
- 主たる原材料が原則として100年以上継続的に使用されていること。
- 一定の地域で当該工芸品を製造する事業者がある程度の規模を保持し、地域産業として成立していること。

経済産業大臣が指定する伝統的工芸品230品目(平成29年11月現在)あり兵庫県では6品目が指定されています。

源泉かけ流しの日帰り天然温泉



緑に囲まれた広い露天風呂で
ゆったり、のんびり
農産物直売所、レストランも併設、
1日ゆっくりお過ごしください。



営業時間

AM10:00 ~ PM10:00
(PM9:30 受付終了)
定休日 毎週火曜日(祝日は営業)

〒669-2153

兵庫県篠山市今田町今田新田 21-10

TEL.079-590-3377

<http://yume-konda.com/>

◆ 入浴料 ◆
大人 700 円
(12 歳以上)
小人 300 円
(6 ~ 11 歳)



兵庫陶芸美術館 展覧会の見どころ

4月以降の閉館時間が変更になりました。
[開館時間] 午前10時～午後6時

●特別展のご案内

弥生之美 -土器に宿る造形と意匠-

2018年3月10日(土)～5月27日(日)

稲作が九州北部に伝わった紀元前4世紀(一説では紀元前10世紀)ごろ、薄手で硬く、明るい褐色の土器がつくられるようになりました。機能性に優れた端正な造形と洗練された意匠は、縄文土器とは趣を異にし、発見された地名から弥生土器と呼ばれました。

本展では、弥生土器の名称の元となった、向ヶ岡貝塚(東京都文京区)で発見された「弥生式土器第1号」(重要文化財)をはじめ、各地の遺跡から出土した多種多様な弥生土器の優品を通して、その造形美や意匠の魅力を紹介します。

[朱彩壺形土器](重要文化財)

朝日遺跡(愛知県清須市・名古屋市)出土 弥生時代後期 愛知県教育委員会



県政150周年記念事業

ひょうごのやきもの150年 -技・匠からアート・個性へ-

2018年6月9日(土)～9月9日(日)

兵庫県政150周年を記念し、古くから窯業の盛んなここ兵庫で、明治から現在までに作られた多様なやきものを紹介します。高い技術力をうかがわせる明治期の輸出陶磁、兵庫県の文化賞や芸術奨励賞受賞作家、伝統工芸士の作品等を通して、産業・美術双方の土壌から生み出された兵庫の陶芸の魅力に迫ります。

出石「白磁貼花菊文籠形壺」

明治時代後期 兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)



県政150周年記念事業

没後50年 河井寛次郎 -過去が咲いてある今、未来の蕾で一杯な今-

2018年9月22日(土)～12月9日(日)

卓越した陶技を駆使し、心の内に湧き出る美への衝動を込めた独創的な造形表現で高い評価を受ける作家・河井寛次郎(1890-1966)。古陶磁の技法研究、新しい美意識を創出した民藝運動への参加を経て、独自の芸術性を確立するまで、陶芸作品の他、木彫や書、調度類など約200点により、その仕事の全貌に迫ります。

河井寛次郎「白地草花絵壺」 1939年 河井寛次郎記念館



兵庫陶芸美術館 〒669-2135 篠山市今田町上立杭4 電話: 079-597-3961 (代表)

HP <http://www.mcart.jp>

●テーマ展のご案内

丹波の民藝

生田和孝の陶業

2018年6月9日(土)～9月9日(日)

戦後、民藝運動の中心人物、河井寛次郎に師事し、後に丹波で、糠白(ぬかしろ)釉・柿釉・飴釉・海鼠(なまこ)釉といった釉薬や、面取・鎗手(しのぎ)などの技法を組み合わせ、力強く豊かな作風を展開した生田和孝(1927-82)。丹波に息づく民藝の系譜の一端を生田の陶業を通してご紹介いたします。



生田和孝「糠釉鎗大鉢」
1978年 個人蔵

県政150周年記念事業

丹波焼の世界

2018年4月1日(日)～2019年3月31日(日)
(2018年5月23日(水)～season2)

日本遺産に認定された日本六古窯の一つに数えられ、800年以上の歴史を持つ丹波焼。変化しながらも現代まで続く丹波焼の世界をお楽しみください。



丹波「壺」
室町時代中期
兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)
Photo Xavier Martel

プレゼントのお知らせ

兵庫陶芸美術館・陶の郷・こんだ薬師温泉の招待券を3施設セットでペア5組10名様にプレゼント。

●応募方法
ハガキに 〒住所・氏名・年齢・本紙の入手場所(〇〇美術館など)・ご意見、ご感想をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

●締め切り
2018年8月末日消印有効。応募多数の場合は抽選になります。

●宛先
〒669-2135
篠山市今田町上立杭4
兵庫陶芸美術館内「陶芸文化プロデューサー」宛

なお、ご応募頂いた方の個人情報は当選者への発送、本紙企画の参考以外の目的には使用いたしません。また当選発表は発送をもってかえさせていただきます。

▼問合せ

電話: 079-597-3961

●兵庫陶芸美術館

お茶席・春霞コンサート・体験ワークショップ
ブ・特設味覚コーナーなど

5月3日(木・祝)～5月5日(土・祝)
兵庫陶芸美術館

▼問合せ

電話: 079-597-2034

●立杭陶の郷・各窯元・最古の登窯

(陶の郷アートギャラリー丹波)
5月1日(火)～5月6日(日)

5月3日(木・祝)～5月5日(土・祝)
窯元オーブン工房

5月3日(木・祝)～5月5日(土・祝)
最古の登窯焼成見学

5月2日(水)～5月4日(金・祝)
丹波立杭陶磁器協同組合

◆第12回「やきものの里 春ものがたり」

緑豊かな自然に囲まれた、やきものの里では、五感で楽しむイベントが満載です。窯元オーブン工房、最古の登窯焼成見学、春霞コンサート、体験ワークショップ、お茶席、味楽市、スタンパラリーなどを開催します。

会場 立杭陶の郷 兵庫陶芸美術館、各窯元など

期間 5月10日(木・祝)～5月5日(土・祝) 3日間

午前10時～午後5時まで

立杭陶の郷 兵庫陶芸美術館、各窯元など

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

イベント案内

◆丹波篠山さくらまつり

「見て、味で、観て、春のささやま」をテーマに、恒例の「春の丹波焼陶器市・銘木変木市」を開催します。篠山の和菓子や観光大使が丹波篠山茶でおもてなしする「お茶席」など、篠山ならではの地域の特性を活かしたイベントが盛り沢山です。

期間 4月7日(土)～8日(日)

午前10時～午後4時まで

篠山城跡三の丸広場

篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売)

春の丹波焼陶器市・銘木変木市・お茶席・ス

テージイベント・ビンゴゲーム

丹波立杭陶磁器協同組合

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

電話: 079-597-2034

丹波伝統工芸公園

立杭 陶の郷

〒669-2135 兵庫県篠山市今田町上立杭3
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232
URL.<http://www.tanbayaki.com/>
【入園料】高校生以上 200円
小中学生 50円

年中無休

開園時間

4月～9月 AM10:00～PM6:00
10月～3月 AM10:00～PM5:00

但し、年末年始は除く

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

窯元横丁

丹波焼の52軒の窯元の作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしうあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティスティックな作品まで、さまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分歩いてみてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸体験してみませんか? 小さなお子様からどなたでも、手びねり(粘土細工)や絵付け体験に挑戦していただけます。釉薬をかけて焼き上げてから、ご自宅まで宅配便で発送いたします。あなただけのオリジナルやきものをつくってみるのも楽しいですよ。